



- ◆国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック
- ◆第2660地区ガバナー 大橋 秀典
- ◆クラブテーマ「言葉ではなく行動で」

創立 2000年11月2日
例会日 木曜日 18:30-19:30
例会場 ホテル・アゴーラ大阪守口
事務局 守口市河原町10-5
ホテル・アゴーラ大阪守口5F
TEL06-6995-7440 FAX06-6995-7441
会長 長野 良雄
幹事 水谷 武志
会報担当 クラブ運営委員会
E-mail m-evening@msj.biglobe.ne.jp
http://www.7b.biglobe.ne.jp/~m-eveningrc/

本日例会 2025年 2月 6日(木) 第991回

担当：国際奉仕委員会

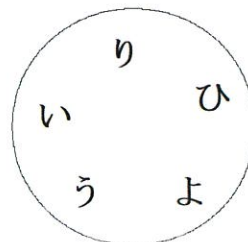
卓話：「支援教育の現状」

北山 展弘 会員

会長の時間

脳トレクイズ

○の中の文字を使って、3文字の言葉と、
4文字の言葉を答えて下さい。



答え： ひよう（費用）
りょひ（旅費）
いりょう（医療）など

前回例会 2025年 1月23日(木) 第990回

- 開 会 会 長
- ロータリーソング「我等の生業」
- ニコニコ箱報告(小計8,000円 累計197,000円)
元古会員 卓話よろしくお願いします。
北山会員 明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。
- 会食
- 委員会報告
1/21(火) 守口門真青年会議所新年交歓会
出席報告 長野会長
- 幹事報告
①会議開催連絡
1/25(土) ロータリー財団補助金管理セミナー開催 水谷会長エレクト出席
②例会休会連絡
1月30日(木) 細則休会
③次回例会開催連絡
2月6日(木) 通常例会
18:00～定例理事会開催
- 出席報告(会員総数17名)
1月23日 出席8名 欠席9名 出席率47.06%
メイクアップ報告
12月19日 出席12名 欠席5名 出席率70.59%
(メイクアップ報告なし)
- 会長の時間
- 本日のプログラム
担 当：会員組織委員会
卓 話：「あれから30年」
卓話者：元古 隆司 会員
- 閉 会 会 長

INFORMATION

例会休会連絡 2月13日(木) 細則休会

次回例会 2025年2月20日(木) 第992回

クラブ親睦例会(ノーマイカー例会)

卓話担当：クラブ運営委員会

親睦食事会場：アゴーラ1階「麗華」

2月の例会予定

2月 6日(木)通常例会

18:00～定例理事会

13日(木)細則休会

20日(木)親睦例会

(食事会場：アゴーラ1階「麗華」)

27日(木)細則休会



卓話 「あれから30年」

元古 隆司 会員

1995年(平成7年)1月17日(火)5時46分52秒にマグニチュード7.3の地震が発生しました。気象庁はこの地震を「平成7年兵庫県南部地震」と命名しています。私達がよく言っている阪神淡路大震災というのは、この地震により引き起こされた地震災害をさしているそうです。調べたところ、地震発生約1か月後に災害名を「阪神淡路大震災」とすることで閣議で口頭了承されました。これは政府が神戸市を中心とした阪神地域および淡路島北部において被害が甚大であり、また災害の規模が大きいことに加え、今後の復旧に統一的な名称が必要と考えたためだということです。2月24日には5年間の時限立法として阪神淡路大震災復興の基本方針及び組織に関する法律が制定、即日施行されたという経緯があったそうです。この地震が非常に大きな揺れであったことは、皆さんの記憶にも残っていると思います。当時私は鉄筋コンクリートの4階建てマンションの3階に住み、家族4人で和室に寝ていました。最初に縦揺れを感じて目覚め、地震だと思っていたら、だんだんと揺れが強くなり、そのうち本当に揺さぶられるような強い揺れを感じました。ちょうど子どもの頭のところに、ベビーダンスがありましたので、跳び起きてダンスを支えました。強い揺れがおさまリ、ダンスも倒れずに済んだと安心しましたが、ふと気づくとマンションはまだ全体がゆらゆらと揺れていました。食器棚などは倒れませんでした。台所では前日に使用した土鍋の中に入れていた水がこぼれており、トイレタンクの中の水がこぼれており、大きな揺れだったのだと実感しました。当時、会社が自転車で数分のところでしたので、普通に出勤しました。工場内も特に被害もなく、午前中の仕事を終え、昼食を取りに近くの喫茶店へ行くと、店内の小さいテレビに阪神高速が横倒しになっている映像が映り、衝撃をうけたことを覚えています。昼食を終えて会社に戻りテレビをつけると、長田区の火事の様子が流れこれは大変なことだと思いました。この地震の揺れ、震度7がどのような揺れだったのかというと、1948年(昭和23年)6月28日に福井県嶺北地方北部を震源として発生した福井地震の震度が、当時の震度階級としては最大の震度6でした。しかし、後の現地調査で震度7に変更され、この地震を契機に震度階級が見直され、1949年に震度7が新設されました。新設後、始めて震度7を記録した

のが阪神大震災ということです。

これ以降、2004年の新潟県中越地震、2011年東北地方太平洋沖地震、2016年熊本地震、北海道胆振東部地震、2024年能登半島地震が震度7の地震です。阪神大震災以降、震度7の地震が頻繁に発生しており、地震活動期に入っているのではないかと思います。

阪神淡路大震災時は、家屋の倒壊で亡くなった方が大半でした。その原因はキラーパルスという振動周期だそうで、当時最大級のものが記録されているそうです。

○地震動の周期と被害との関係

地震動には、短い周期の波によるガタガタとした揺れと、長い周期の波が伝わって生じるゆっくり繰り返す揺れとが、同時に混ざっている。短周期のものは、一般に建物、設備等を加振して損傷などの影響を与える。東北地方太平洋沖地震の震源に近い地域における、揺れによる人的被害や住家等の被害の多くはこの短周期の地震動によって生じている。また、比較的規模の大きな地震が発生すると数秒から十数秒の周期でゆっくりと揺れる地震動が発生することがある。このような地震動のことを長周期地震動という。長周期地震動は震源から遠く離れたところまで伝わりやすい性質があるため、震源から離れた地点においても、大きな振幅が観測されることが特徴としてあげられる。東日本大震災においても震源から遠く離れた東京や大阪でも長周期地震動による影響がみられた。地震動の周期は、マグニチュードや計測震度の大きさとともに建物、設備等の被害程度に関係する大きな要素の一つである。短周期地震動による影響一般に、周期が2秒以下の振動が主成分を占める地震動を短周期地震動と呼んでいる。過去には、兵庫県南部地震において1秒から2秒の短周期地震動による建物への被害が大きかった。他に新潟県中越地震及び新潟県中越沖地震も周期1秒から2秒の地震動が観測された。この1秒から2秒の地震動は、やや短周期地震動と呼ばれており、比較的低層の建物に大きな被害を及ぼしやすく、「キラーパルス」という呼称で報道されることがある。東日本大震災においては、地震の震度の割に大きな被害を受けた建物は比較的少なかった。この理由は東北地方太平洋沖地震の地震動周期は1秒以下の短周期が主成分となっており前述の「キラーパルス」の成分は少なかったことによるものと考えられる。

(総務省消防庁資料「2.3地震動の周期とその影響」

より抜粋